

令和3年4月30日

学生、教職員の皆様

学長（危機対策本部長） 仁科 弘重

新型コロナウイルスによる感染症対策に関し、学生、教職員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

令和3年4月22日（木）から、愛媛大学では、「警戒レベル3（オレンジ）」の対応を取っており、授業についても、「特例的な授業を除き、遠隔授業のみ実施」としています。

まず、本学の危機対策本部会議での議論を含めて、私が考えていることは、以下のとおりです。現在、愛媛県内で感染拡大しているのは「変異株」といわれるものです（既に、ほぼ100%）。この変異株は、感染力が強く（※）、重症化のスピードも速いことは周知の事実になっています。愛媛県が、大都市をもたない国内の県で初めて「まん延防止等重点措置」の適用対象とされたことも、国レベルで考えても、愛媛県の感染状況が非常に危機的な状況になっていると理解されたためと思います。変異株の感染拡大のため、23日（金）に愛媛県医師会が会見を行ったように、愛媛県の医療は崩壊直前となっています。私どもは、附属病院の先生方から、現場の状況を毎日お聞きしています。これらのことから、「当面の間」と期間を限定し、「特例的な授業を除き、遠隔授業のみ実施」とさせていただきました。

※：愛媛県では、令和2年3月2日から3年3月19日までの「384日間」で陽性者が1081名であったのに対して、令和3年3月20日以降のわずか「40日間」で1198名の陽性者が確認されています（4月28日現在）。

以下、よくいただくご意見（Question）について、私がどのように考えているか（Answer）について述べます。

まず、「小中学校では対面の授業を行っているのに、なぜ、愛媛大学ではできないのか？」のご意見については、次のように考えています。

「大学生は、授業時間では、感染に繋がる行動はしていない」はそのとおりと思います。しかし、大学生は、小中学校の児童、生徒とは異なり、授業時間の間の行動は大学生に任されています。また、残念ながら、本学でも事実として、授業時間の間の「密」になる行為、生協食堂での（マスクなし）会話が、散見されていました。この点を大きな懸念材料と考えています。

次に、「学生は自主的に、まじめに対策に取り組み、大きなクラスターを頻繁に発生させてこなかったのではないか？」のご意見については、次のように考えています。

「大きなクラスターを頻繁に発生させてこなかった」のは事実ですが、[19日（月）の学長メッセージ](#)で「『新たなウイルスによるパンデミック』と考えた方がよいほどの状況」と書きましたが、変異株の感染力は、これまでの私どもの経験を超えるものです。「これまでは、このように

して、大丈夫だった」は、今後の対応を考える際の根拠とはならないと考えています。愛媛県で変異株による感染拡大が続いている現状をより深刻に受け止め、各自の行動を自制していかざるを得ないと考えています。

3つ目に、「授業やサークル・諸活動を対面型で実施しなければ、大学の魅力や先輩の経験を継承できないのではないか？」とのご意見については、確かにそのとおりです。ただし、私どもは、「(対面の授業などを)危機的な状況にある現在でも行わなければならないか？」を検討しました。その結果、「当面の間」は1カ月程度を想定していますが、「1カ月できなかったことは、秋休みやその他の期間で、ある程度は行える、補える」と考えています。

私ども、教職員も、対面の授業を行いたいと考えています。しかし、コロナウイルス、特に「変異株」は感染力が非常に強く、また、若年層も重症化する事例が報告されています。そのため、「今は」、可能な限り「stay home」を行わざるを得ません。「絶対に今しなければならないこと以外は、延期」とせざるを得ません。

最後に、附属病院では、愛媛県の重症患者の半数以上（本来の定員以上）を引き受け、医師、看護師の皆さんの頑張りで、最大限の治療が続けられています。愛媛大学の構成員は、このことにも思いを致し、愛媛県内の感染拡大防止のために、「各人ができることをする」ことが必要だと考えています。愛媛県が、わが国が、世界が、早くコロナ禍から解放されるように、頑張っていきたいと思います。